

何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

- 各教科における基礎・基本を身に付けることができる。
- 身に付けた知識や技能、生活経験を活かしながら、主体的に学習したり、自分で考えて学んだり、行動したりする態度を身に付けることができる。
- 友達や地域の人々とよりよく関わり、学び合うことができる。

何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- 前年度までの経験や学びを基に新しい学習に取り組むことができた。
- 友達と学び合うことができた。

子ども達の実態

- 学習への興味がある児童が多く、新しく使う器具や学習することへの興味が強い。
- 素直に考えたり行動したりすることができる。
- 自分のことは自分でやろうとする。
- 失敗を恐れて、積極的に行動することが難しい。

子ども達の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子どもへの指導

- 個々の課題や困り感を把握し、それらに合わせた支援を行う。
- 教科担任制のよさを生かし、情報共有を図り、指導に当たる。

目指す子ども達の姿

- 学び合いの中で、自分の考えを表現し、伝える。
- 学校や地域の人とのつながりを大切にしようとする。
- 課題解決に向けて、様々な目的や方法の中から選択することができる。

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- これまでの学習や経験をもとに、自分の思いや考えをもち、自分の言葉で相手に伝える。
- 一年間の学習の見通しをもち、校外学習や体験学習、出前授業を単元に関連付けて設定し、教科横断的な学習をする。
- 5年生とのなかよし活動で、次年度を意識しながら協力して活動する。

どのように学ぶか

○各教科等の授業の実施

- PDCA サイクルを通して、指導と評価の一体化を図る。
- 問題解決的な学習を取り入れる。
- 安心して自分の思いや考えを伝えられる学習環境

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- 学年研の充実…積極的に学年で情報交換を行い、学習進度や指導の仕方などを確認しながら進めて、学年で子ども達を育てていく。
- 地域とのつながりづくり…地域や外部の人材を生かした教育活動に取り組む。
- 色々な相手との関わり…クラス単位だけでなく、同学年や異学年と関わる機会をもつ。
- Y-P アセスメントの活用 ○懇談会等の内容の充実

各教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- 総合的な学習を軸に教科横断的かつ体験的な学習活動を設定し、学んだことがつながる実感をもてるようにする。
- 発達段階や個々の特性に応じた学習環境の調整をしていく。
- 安心して思いや考えを伝え合ったり、受け止めたりすることができる集団づくり。
- 汎用的な資質・能力の育成 ○情報活用能力の育成